



広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
京都大学医学部人間健康科学科



基礎医学記念講堂での高校生に向けた研究紹介・入試制度説明会の様子（2023年8月）

目次

○専攻長・学科長メッセージ	青山 朋樹… 2	総合医療科学コース	助教 御手洗 彰…11
○退任挨拶		先端理学療法学講座	助教 林 和寛…12
元先端看護科学コース	教授 恒藤 暁… 3	食と健康科学研究講座	特定助教 稲葉 明彦…12
元総合医療科学コース	教授 岡 昌吾… 3	先端作業療法学講座	特定助教 岩永 裕人…13
元先端リハビリテーション科学コース	教授 黒木 裕士… 4	先端作業療法学講座	特定助教 藤原 健悟…13
元先端看護科学コース	准教授 鎌田真由美… 4	○第33回健康科学市民公開講座報告書	……………14
元先端リハビリテーション科学コース	准教授 谷向 仁… 5	○2023年度オープンキャンパス	……………16
元先端看護科学コース	特定准教授 岩田 浩明… 5	○新規博士	……………17
元先端看護科学コース	特定准教授 岡本 里香… 6	看護科学コース	近藤めぐみ…18
元先端看護科学コース	助教 古谷 和紀… 6	総合医療科学コース	木藤 哲史…18
○新任挨拶		総合医療科学コース	岸上祐加子…19
総合医療科学コース	教授 野中 元裕… 7	総合医療科学コース	東 克暁…19
先端理学療法学講座	教授 山口 智史… 7	看護科学コース	田村 葉子…20
総合医療科学コース	特定教授 福岡 真悟… 8	リハビリテーション科学コース	高橋 秀樹…20
先端看護科学コース	准教授 阿久澤智恵子… 8	○入試、修了・卒業者数	……………21
先端看護科学コース	准教授 嶋田 和貴… 9	○卒業生の進路調査結果	……………24
総合医療科学コース	准教授 上野 智弘… 9	○人事異動	……………25
総合医療科学コース	准教授 松尾 英将…10	○日誌	……………26
先端看護科学コース	助教 石川 恵子…10	○あとがき	……………27
先端看護科学コース	助教 三井 督子…11		



専攻長・学科長メッセージ

青山 朋樹

京都大学医学部は今年 125 周年を迎えます。それと共に人間健康科学科も 125 周年を迎えます。明治 30 年 6 月に京都帝国大学が設置され、明治 32 年 9 月には医科大学医学科が開設、12 月には医科大学附属病院とともに看護養成所が開設されました。このことから今年は医学部、医学部附属病院、そして人間健康科学科においてさまざまな 125 周年記念行事が開催されます。

人間健康科学科はこれまでに名称や機能が何度も変化してきました。おおきなものとしては昭和 34 年に衛生検査技師学校、昭和 57 年に理学療法学科・作業療法学科が設置され、平成 15 年には保健学科として 4 年制への移行、平成 21 年には大学院博士後期課程が設置されました。いずれも時代の要請に従って変化、改組、そして発展してきました。すでに短期大学士、学士卒業生だけでなく、数多くの修士、博士卒業生を輩出し、医療領域におけるリーダーとして、国民の、そして世界中の人々の健康に寄与する活動を展開しております。

さて、時代はまた多くの課題を医療領域に突きつけております。それは人工知能（AI）をはじめとする機械とヒトが、ある意味、ガチンコで向き合う時代の到来です。さまざまな領域においても AI が仕事を奪ってしまうとか、次の時代にはなくなる仕事といったものが取りざたされております。医療専門職の仕事は他の仕事と比較した際には、なくなる仕事として上位にランクインしておりますが、今後 AI だけでなくアシストロボットやさらに新しいモダリティが開発された際には必ずしも安寧としていられないかもしれません。人間健康科学科では医学研究科、医学部附属病院と共に医療 DX 教育研究センターを開設し、医療における最新のデジタルトランスフォーメーション技術の開発、教育、研究を行っており、次の時代にもさらに発展的に生き残る道を探索しております。

125 年の間には人間健康科学科にとって、さまざまな危機があったことでしょう。しかしながらそれらを切り抜けるだけでなく、さらに発展させてきた先人達の知恵と努力の数々がありました。そういった先輩方の努力を顕彰しつつ、次の時代に発展できる知力を磨いてまいりましょう。

退職のご挨拶

元先端看護科学コース 教授 恒藤 暁

2024 年 3 月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。2014 年 4 月に京都大学医学部附属病院に着任して以来、2016 年 8 月からは先端看護科学コースの先端中核看護科学講座に在籍し、緩和医療科の診療を行いながら学生の教育と研究指導を担当して参りました。学内では、学生厚生支援委員会の委員長として、多くの貴重な経験をさせていただきました。この間、多くの先生方から賜わったご指導とご支援に心より感謝申し上げます。

現在は本年 4 月から半年間、カナダのモントリオールにある McGill 大学で Whole Person Care 教育を学びながら、リフレッシュと充電の期間を過ごしております。京都大学、そして McGill 大学で得た経験を活かし、今後の活動に臨む所存です。引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の一層のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。



退職のご挨拶

元総合医療科学コース 教授 岡 昌吾

2024 年 3 月 31 日をもちまして、京都大学医学研究科人間健康科学系専攻を定年退職いたしました。私は 2006 年に京都大学薬学研究科から本専攻の教授として異動してまいりました。本年定年退職するまで、約 18 年間の長きにわたり在籍させていただきました。その間、多くの方々のご支援とご指導により、無事退職できたことを心より感謝申し上げます。

現在は縁あって、藤田医科大学医療科学部において特命教授として勤務させていただいております。ここ何年かは自ら実験を行うことが少なくなっておりましたので、少しずつリハビリを兼ねて実験を楽しんでおります。また、学生時代以来の下宿生活も楽しみながら日々を過ごしております。

末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の益々のご発展を祈念するとともに、皆様のご健勝を心より祈念し、挨拶とさせていただきます。



退職のご挨拶

元先端リハビリテーション科学コース 教授 黒木 裕士

2024年3月末日をもって定年退職となり、3年制だった医療技術短期大学部に着任した1984年から含めると40年間の教員生活に終止符を打つことになりました。

この定年退職に向け、今後使用しないと思われるパソコンのファイルを勢いよく完全に削除する作業に追われていた時、何とまあ、たくさんのファイルを作ったため込んだことか、を実感しました。不要な物を断ち切り、物への執着心をなくし、身軽で快適な生活や人生を手に入れるために行われる、いわゆる断捨離が必要だと感じました。

私のノートパソコン・デスクトップ上のフォルダ名は、1. 教育、2. 研究、3. 診療、4. 組織運営、5. その他の5つを作成しており、それらフォルダの中でファイル数が最も多かったのが3. 組織運営、次が1. 教育と2. 研究でした。

振り返ってみますと、1984年当時は現在のような性能を備えたパソコンは市場では販売されておらず、フロッピー・ディスクなる媒体に文書を保存する方式のワードプロセッサでしたので、すでに処分・破壊済みでした。この間に、短期大学教育から4年制学部教育への衣替えや、学生定員を見直した学部再編、大学院修士・博士課程設置に向けた組織再編など、当時の医療技術短期大学部では考えられなかった大きな変革を、身をもって体験いたしました。

とくに委員長をつとめた教務・教育委員会では、学部再編に向けた新カリキュラム編成、大学院新設の取組み、文部科学省法人支援課を訪問して行われた学部再編・大学院設置に関する概算要求ヒアリングへの臨席など、極めて貴重な経験をいたしました。いずれの場面でも、同委員会の枠を超えて多くの先生方からの多大なご支援とご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

どのコースにおいてもそうですが、学生は大学の宝です。将来は世界を牽引する臨床家、研究者のリーダーとなるこの学生たちを、教育・研究面から導く難しさ、そして楽しさの両面を、私自身を取り巻く環境の変化も含めて肌で感じながら教員生活を送り、終えることができたことは比類ない喜びです。この喜びの場を与えていただいた京都大学に対し、感謝したいと思います。

最後になりましたが、人間健康科学系専攻の皆様のご健勝と益々のご発展を心より祈念申し上げます。



退職のご挨拶

元先端看護科学コース 准教授 鎌田 真由美

2024年3月末日をもって京都大学を退職し、4月より北里大学未来工学部データサイエンス学科教授として勤務させていただきます。

私は2017年10月に旧検査技術科学コースに着任いたしました。専攻にて最初に取り組ませていただいたのは、デロイトトーマツとのSRPによる医療データサイエンティスト育成のための履修証明プログラムの立ち上げでした。多くの先生方のご協力を得て2019年に開始したプログラム（通称DHIEP）は、本年度も継続的に実施されており、大変嬉しく存じます。2022年からは医療DX教育研究センターの専任教員として、新たな大学院教育コースの立ち上げ等に関らせていただきました。人間健康科学系専攻、特に総合医療科学コースでは、コースのお役に立てる場面が限られておりましたが、それでも温かいご指導とサポートをいただき、深く感謝しております。さらに、委員会・ワーキンググループを担当させていただくなかで、多くの経験と学びを得ることができました。改めて、人間健康科学系専攻と医療DX教育研究センターの先生方、そして教務掛をはじめとする事務の皆様へ、心より感謝申し上げます。

北里大学未来工学部は2023年4月にスタートした新しい学部です。専任教員の多くは同世代ということもあり、風通しの良い雰囲気でも和気藹々としておりますが、各分野をリードする先生方に日々刺激をいただいております。ま

た、工学部ではありますが、医療・ヘルスケアに興味のある学生が多いこと、そして隣接する北里大学病院のデータ活用と連携が求められていることから、まさに人間健康科学系専攻で培った経験が今の土台になっていると実感しております。学ばせていただいたことを糧に日々精進していく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。



退職のご挨拶

元先端リハビリテーション科学コース 准教授 谷向 仁

私は2017年4月から7年間、作業療法学講座（現先端作業療法学講座）に所属させていただきました。精神科医ですので、作業療法士の方々とは診療でも協働することが多かったのですが、着任後は講座の先生方からあらためて学問としての作業療法学や研究領域について多くを学ばせていただきました。振り返りますと、私の在任中、講座内では教員の退官、異動、新たな着任などが多数あり、いつしか私が一番の古株になっていました。現在は稲富講座長を中心に精力的に安定した活動が進んでおりとても嬉しく思っております。また、講座の枠を超え、他の領域の先生方とも人間健康科学系専攻の活動をご一緒出来たことはとてもいい経験となりました。私は、附属病院における緩和ケアチームでの診療も毎日ありましたので、業務の面で皆様にご迷惑をおかけすることもあったかと思いますがどうぞお許してください。そして様々な点でお世話になり本当に有難うございました。

2024年4月からは名古屋市立大学大学院看護学研究科精神保健看護学分野に所属し、学部・大学院、専門看護師教育とともに研究活動も続けております。また皆様と何らかの活動で協働できれば大変うれしく思います。

末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の益々のご発展、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



退職のご挨拶

元先端看護科学コース 特定准教授 岩田 浩明

2024年3月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職し、4月からは鳥取大学医学部保健学科の教授として勤務しております。

2016年10月に味覚分子構造科学講座に着任し、2019年10月からは先端看護科学コース先端基盤看護科学講座に異動し、合計7年半の間、大変お世話になりました。その間、私はデータサイエンスを専門とし、医療および創薬に関するビッグデータ解析研究に従事してまいりました。また、学生の教育や研究指導にも携わらせていただきました。人間健康科学系専攻での経験や学びは、現在の鳥取大学医学部保健学科において、臨床検査技師や看護師を目指す学生の教育および研究に非常に役立っております。

現職においても、医療分野でのデータサイエンス技術に対する期待を強く感じており、引き続き研鑽を積んでまいります。これからもご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



退職のご挨拶

元先端看護科学コース 特定准教授 岡本 里香

2024年3月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職し、4月からは以前より勤務しております、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センター（TRI）学術研究推進室の室長のみの勤務となります。

2018年11月よりクロスアポイントメント制度を活用し、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻に着任し、5年5カ月在籍致しました。クロスアポイントメント制度での在籍でしたので、一方のアカデミアでの臨床研究支援業務である治験計画の立案や治験実施プロセス管理業務との両立は大変でしたが、奥野恭史教授、研究室の皆様のAI技術研究を臨床研究支援業務にどのように活用できるのかを一緒に検討させて頂き、とても重要かつ大切な在籍期間となりました。アカデミアでの臨床研究支援の職務以前では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）で医薬品の承認審査、市販後の安全対策評価を行っていましたので、行政機関での承認審査や安全対策評価へのAI活用についても検討することができ、実際に、PMDAに安全対策評価支援のAIモデルを導入できたことは、奥野恭史教授、研究室の皆様のお陰であり、ご指導、ご支援に深く感謝申し上げます。

引き続き、TRIでの臨床試験支援業務にAI活用を検討し、国内の治験の効率化、活性化に寄与したいと思っておりますので、今後とも奥野恭史教授、研究室の皆様からのご指導を頂けましたら幸いです。

クロスアポイントメントの立場のため、人間健康科学系専攻の学内業務ではお気遣い頂くばかりで、あまり貢献できずご迷惑をお掛けいたしました。

末筆ではございますが、皆様のご健勝と益々のご発展を心より祈念申し上げます。



退職のご挨拶

元先端看護科学コース 助教 古谷 和紀

2024年3月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職し、4月からは医学部附属病院で老人看護専門看護師として勤務させていただいております。

私は、2019年4月より先端看護科学コース先端中核看護科学講座にダブルアポイントメント教員として着任し、5年間在籍いたしました。

コロナ禍での医療現場—大学教育と双方に従事するバランスは難しいこともございましたが、大学では、高度実践研究者養成プログラム専門看護師課程の授業運営、看護科学コースでの授業などを通して、さまざまな学生や先生方とともに貴重な経験をさせていただきました。多くの先生方より貴重なご指導とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。加えて、医学部附属病院では看護部管理室での臨床看護教育や組織横断的にせん妄・認知症ケアの活動におきましても、老人看護専門看護師として従事させていただきましたことを心よりお礼申し上げます。

医学部附属病院で引き続き老人看護専門看護師として勤務しておりますので、ダブルアポイントメント教員としての経験を活かして、臨床—教育・研究の架け橋として尽力していく所存です。

末筆ではございますが、皆様のご健勝と益々のご発展を心より祈念申し上げます。



着任のご挨拶

総合医療科学コース 教授 野中 元裕

2024年4月より、人間健康科学系専攻総合医療科学コース基礎系医療科学講座の教授に着任いたしました。この場をお借りしまして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は、本学薬学研究科にて学位を取得し、立命館大学、米国 Sanford Burnham Prebys 研究所、産業技術総合研究所での博士研究員を経験してきました。2019年4月からは、当専攻の分子生命基礎医療科学分野の准教授として研究室の運営に携わって参りましたが、この度、同分野をこれまで率いていただきました岡昌吾先生の後任として、教授を拝命する運びとなりました。研究面においては、ファージディスプレイ法を用いた難治性疾患（がん、自己免疫疾患）のバイオマーカーの取得や、低分子鏡像抗体を用いた抗体医薬品の新しいモダリティ開発などを進めております。また、教育面においては、当分野では全学共通科目では基礎化学実験を、学部科目では生化学、分子細胞生物学、臨床化学などを担当しております。これらの活動を通じて、総合医療科学コースの「先端医療に資する世界レベルでの臨床検査技師および研究者を育成する」という使命に少しでも貢献できるよう、努力して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



着任のご挨拶

先端理学療法学講座 教授 山口 智史

2024年4月1日付けで京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端リハビリテーション科学コース先端理学療法学講座の教授に着任した山口智史と申します。

私は、急性期病院や回復期リハビリテーション病院、生活期での通所リハビリテーションなどの神経理学療法領域の幅広い範囲において、臨床および研究に従事してきました。また、慶應義塾大学大学院リハビリテーション医学教室において博士号を取得し、日本学術振興会特別研究員や海外特別研究員としての研究活動や国際共同研究を遂行してきた経歴から、大学・大学院教育に精力的に取り組んできました。

研究では、臨床経験に基づく clinical question から、神経疾患後の運動障害の改善を促すための研究として、神経生理学的根拠に基づく神経筋電気刺激、非侵襲的脳刺激、brain machine interface、robotics 治療の開発ならびに臨床効果、その効果機序を解明に取り組んでいます。

これらの臨床、教育、研究の経験と知識を活かして、国内外のリハビリテーション分野を先導し、社会に貢献できる理学療法士を育成したいと考えています。また、理学療法士という専門的職業の枠にこだわらず、京都大学の自由な学風を活かし、学生が持つ個々の可能性を発展させつつ、社会が抱える多元的な課題の解決に挑戦し、社会に貢献できる人材を育成していきたいと考えています。

高い目標を持ち、専門分野だけでなく、京都大学の発展に貢献していきたいと考えていますが、若輩者のため今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

総合医療科学コース 特定教授 福間 真悟

2024年4月より、総合医療科学コースの特定教授として引き続き活動する機会を頂きまして感謝申し上げます。同時に、広島大学疫学・疾病制御学とのクロスアポイントメントを開始させて頂きました。当研究室では、自治体、保険者と連携し、大規模健康医療データに疫学、臨床研究、情報科学、行動科学、行動経済学を応用し、医療の質の改善、患者・住民の健康行動改善、健康プログラムや健康制度設計の改善に取り組んでいます。社会から求められる健康課題を解決する研究プロジェクトの推進を通じて、人間健康科学系専攻、総合医療科学コースからの研究発信、人材育成に貢献できるように、精進してまいります。今後ともご指導のほど、宜しく願い致します。



着任のご挨拶

先端看護科学コース 准教授 阿久澤 智恵子

2023年7月1日付けで京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻小児看護学分野の准教授に就任いたしました阿久澤智恵子と申します。この場をお借りして、皆さまに着任のご挨拶を申し上げます。

私は、2019年に群馬大学大学院保健学研究科において看護学博士の学位を取得いたしました。同年4月より山梨大学大学院総合研究部で准教授として勤務し、この度、ご縁があり京都大学に着任いたしました。臨床では、小児科、産科、新生児室の経験を経た後、看護教育の現場に入りました。2児を保育園に預けてフルタイムで働いている中で、子どもが、度々体調不良を起こし仕事中に呼び出されたり、多様な症状に対し、適切に対応されていない現状を目の当たりにしました。子ども達を安心・安全に預けられる環境が整っている施設があることで、働く母親への間接的な子育て支援になること、また、保育に関わる専門職が知識や技術を身につけることで、子ども達が健全に成長・発達していくことのできる環境を整備する必要性を強く感じ、大学院進学及び大学教育・研究の場に職場を移しました。現在は、アレルギー児だけでなく、医療的ケア児や小児がん経験児等が、在宅移行後や地域生活を送る上で健常児と変わらない生活を送ることができるよう環境を整えるための研究を行っております。

京都大学に着任して、驚くことが沢山ありました。その中でも特に、看護コースに多い女性研究者達が、子育てをしながら生き生きと教育・研究を行っている姿には感服いたしました。「育児・介護中の人へのライフイベントに応じた支援」「性別を問わず研究者へのライフイベントに応じた支援」等、男女共同参画推進センターによるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進の具体的な取組が行われていることを知りました。改めて、教育・研究が遂行しやすい充分に整った環境の中に所属させていただいていることを嬉しく感じております。能力の高い学部生や院生達が、存分に持てる力を発揮できるよう、教育・研究の支援に尽力していきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



着任のご挨拶

先端看護科学コース 准教授 嶋田 和貴

新任のご挨拶を申し上げます。このたび、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端中核看護科学講座緩和ケア看護学分野准教授に着任いたしました嶋田和貴と申します。昨年までは本学医学部附属病院緩和医療科で特定講師を務めさせていただきましたが、今年の間人健康科学への着任と同時に、緩和医療科の診療科長も務めさせていただいております。臨床医としての専門分野は緩和ケアと呼吸器内科学であり、これまでに大阪大学や福井大学、本学医学部附属病院で研究・教育活動を行ってまいりました。新たな環境で皆様と共に学び、成長できることを大変楽しみにしております。

私の研究テーマは、人工知能関連技術の応用による緩和ケアの発展と地域医療への寄与であり、この分野においていくつかの成果を上げてきました。具体的には、機械学習の応用で、非専門家でも評価可能な症状から、専門家の支援がないと評価困難な症状を予測する手法を発明し、本学から特許出願を進めるとともに、がん緩和ケア領域で活用すべく企業と連携してアプリ化に関する研究を行い、その結果を国内外の学会や学術誌に発表してまいりました。また、本学附属病院での教育経験を通じて、多くの学生や研修医たちと共に学び合い、彼らの成長を見守ってきました。これからは本学人間健康科学の一員として、学生の皆さんが自らの可能性を最大限に引き出せるよう、全力でサポートしていきたいと考えております。

大学は、知識を深めるだけでなく、新たな発見や創造を行うための大切な場所です。私自身も、常に新しいことに挑戦し続ける姿勢を忘れず、学生の皆さんと共に学び、成長していきたいと考えております。また、教育者としての役割だけでなく、研究者としても最先端の研究を進め、社会に貢献できるよう努めてまいります。

大学の発展と共に、自身も成長し続けるためには、学生の皆さんや教職員の皆様との協力が不可欠です。皆様との対話を大切にし、オープンなコミュニケーションを通じて、互いに学び合い、刺激し合える環境を築いていきたいと考えております。そのためには、皆様のご指導とご協力が必要ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様との出会いを大変楽しみにしております。新任教員としての責任を胸に、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

総合医療科学コース 准教授 上野 智弘

2023年8月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻総合医療科学コース理工系医療科学講座先端医療機器システム学分野に准教授として着任いたしました。

私は京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻で学位を取得した後、マサチューセッツ工科大学や京都大学低温物質科学センターを経て、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻に助手として着任いたしました。その後、人間健康科学系専攻にて、高解像度のMRIであるMR顕微鏡の開発に従事し、メダカのヒト疾患モデルの経時観察などを行ってきました。引き続き、こうした機器開発研究を、学生や教員の方々とともに進めていきたいと考えております。

また、准教授として、主に人間健康科学科の1回生を対象とする全学共通科目の数学を担当させていただいております。数学は、定量性を担保し、科学を語るための重要なツールの一つです。しかしながら、大学での数学は抽象度が高くなり、1回生にとってハードルが高いとも感じています。数学の論理性や厳密性を保ちつつ、学生がハードルを乗り越えて、重要なツールを手に入れられるよう努力していきたいと考えております。



着任のご挨拶

総合医療科学コース 准教授 松尾 英将

2024年4月1日付で、総合医療科学コース臨床ゲノム解析学分野の准教授を拝命しました。本誌をお借りして、人間健康科学系専攻の皆様にご挨拶申し上げます。

私は2011年に京都大学医学部保健学科検査技術科学専攻（現・人間健康科学科総合医療科学コース）を卒業し、本専攻の修士課程を経て、京都大学医学部附属病院検査部で臨床検査技師として生理機能検査と輸血検査に5年間従事しました。2015年には社会人として本専攻の博士後期課程に入学し、2018年3月に修了しました。それと同時に検査部より本専攻に配置換えとなり、助教として6年間勤務してまいりました。

教育については、総合医療科学コースにおける臨床検査教育プログラムの講義や実習を中心に担当しております。私は、学部生・大学院生時代にご指導いただいた先生方への憧れから大学教員を志しました。その夢が叶い、今度は私自身が学生にとっての良きロールモデルとなれるよう努力しております。また現在、臨床検査技師教育は新カリキュラム、タスクシフト・シェアといった大きな変化がございます。私の臨床経験を生かし、コースの先生方のお力添えもいただきながら、病院検査部との連携を大切にしてしっかりと対応していく所存です。研究については、これまで取り組んでまいりました血液腫瘍のゲノム解析研究をさらに発展させるとともに、研究マインドを持つ医療専門職や世界をリードする医学研究者の育成に努めてまいります。

何卒ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端看護科学コース 助教 石川 恵子

2024年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端看護科学コース先端中核看護科学講座生活習慣病看護学分野の助教に着任いたしました、石川恵子と申します。この場をお借りし、着任のご挨拶を申し上げます。

私は本学の看護学専攻を卒業し、京大病院で主に循環器内科病棟で5年間勤務致しました。その後、本学の修士を修了、昨年度まで本学の博士課程に在籍しておりました。今回の着任より、ダブルアポイントメント教員として、週2日は教員として、週3日は京大病院で勤務をさせて頂いております。このような働き方をさせて頂ける強みを十分に生かして、慢性疾患看護専門看護師として後進の育成に努め、また、臨床と研究を繋ぎ看護学の発展に尽力する所存です。ご指導、ご鞭撻を賜ります様何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

先端看護科学コース 助教 三井 督子

2023年7月1日付で人間健康科学系専攻先端中核看護科学講座精神看護学分野に助教として着任いたしました三井督子と申します。この場をお借りして着任のご挨拶を申し上げます。

私は、東京医科歯科大学医学部保健衛生学科を卒業後、附属病院で看護師として勤務する傍ら、専門看護師を目指し東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程を修了しました。その後、私立大学での勤務を経て、近年は精神科病院で精神看護専門看護師として患者さんへの直接ケアや看護スタッフの教育に携わってきました。

この度、ダブルアポイントメント教員として採用していただき、京都大学医学部附属病院で精神看護専門看護師としての臨床実践を行いながら、研究や教育に携わることができることを本当にありがたく感謝しております。日々、先生方の様々なご活躍に圧倒されながらも刺激を受け、身の引き締まる思いがしております。臨床と研究を繋ぎ、患者さんのQOL向上に役立つよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

総合医療科学コース 助教 御手洗 彰

2024年4月1日付で京都大学医学研究科人間健康科学系専攻知能医工学分野に着任いたしました御手洗彰と申します。私は、2023年に京都産業大学大学院先端情報学専攻にて博士号を取得した後に、京都大学医学部附属病院医療情報企画部にて1年間医療情報分野の研究に従事してまいりました。

私はヒューマンコンピュータインタラクションという分野を専門としてこれまで研究してきました。この分野は人とコンピュータの関係性を学問としており、特に人間とコンピュータの持続的な関係性を築き上げるために、様々なインタフェースの研究を行ってきました。昨今の生成系AIの出現により、コンピュータはより多くの仕事を成せるようになってきましたが、それを扱う人間の気持ちはまだまだ追いついていないと考えています。たとえば、医療現場のような生命が関わるクリティカルな現場ではコンピュータの判断だけでは信用できない場面も多く存在します。

本学における研究では、AIによって導き出された診断や結果の根拠を説明できるような、人間とAIが共に歩んでいける世界をつくり、医療者を支援することを目指してまいりたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端理学療法学講座 助教 林 和寛

2023年12月より京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端リハビリテーション科学コース先端理学療法学講座に着任いたしました、林和寛と申します。この場をお借りしまして、人間健康科学系専攻の皆様方にご挨拶申し上げます。

これまで、理学療法士として勤務してきたことに加えて、臨床研究、基礎研究に携わってきました。慢性の病とともに生きる人々がその人らしく暮らしていくために、リハビリテーションから支援を行えるように、研鑽を重ねていく所存でございます。そして、そのリハビリテーションを学ぶ人々が、良い学びを重ねていけることを目指していきたいと考えています。

京都大学にて臨床・教育・研究に携わらせていただく大変貴重な機会をいただき感謝しております。京都大学の恵まれた環境を生かして、少しでも人間健康科学系専攻の発展に貢献したいと考えております。人間健康科学系専攻の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

食と健康科学研究講座 特定助教 稲葉 明彦

2023年8月付で、食と健康科学研究講座の特定助教として着任いたしました、稲葉明彦と申します。本誌をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は東京農業大学での栄養士課程および修士課程を経て、京都大学理学研究科生物科学専攻にて博士号を取得いたしました。私はこれまで、腸内で恒常性維持に関わる腸管希少細胞の機能に関心を持ち、三次元培養細胞を用いた解析を軸に、分子生物学の観点から腸管機能について研究して参りました。食と健康科学研究講座では、私達が日々摂取している食を通して人々の健康に貢献できるように、ヒトモデルの培養細胞や機器分析を基に、食品が有するあらゆる機能性を解析・評価・予測すること目標としております。私がこれまで取り組んできた栄養士や腸管機能研究のバックグラウンドを活かしながら、研究を通して多少なりとも人々が健康に暮らせる社会に貢献できるよう自己研鑽を重ねていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端作業療法学講座 特定助教 岩永 裕人

2024年4月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系先端作業療法学講座の特定助教として着任いたしました、岩永裕人と申します。私は長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻を卒業後、同大学大学院の修士号、博士号を取得しました。

私の専門は主に神経発達症(自閉スペクトラム症や注意欠如/多動症)を有する子どもに対する作業療法です。特に、神経発達症を有する子どもとその家族がその人らしい生活を送るために何が重要なのか、どのような支援が有効なのかを大切にしながら、これまで臨床実践、研究活動を積んでまいりました。

この度は、発達性協調運動症を有する子どもの評価・支援機器の開発に関する研究プロジェクトの特定助教として採用いただきました。発達性協調運動症は近年、国際的に注目度が高い神経発達症の一つです。しかし、その病態メカニズムは十分に明らかになっていない、最適な支援方法も確立されていないという課題があります。本大学の優れた環境を生かし、本研究プロジェクトを推進することや、教育活動に尽力することを通して、本専攻の発展に寄与できるように精進して参ります。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端作業療法学講座 特定助教 藤原 謙吾

2024年4月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端リハビリテーション科学コース先端作業療法学講座の特定助教として着任しました藤原謙吾と申します。本稿をお借りして皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は2009年に作業療法士になり、長崎リハビリテーション病院(回復期リハ病棟)で15年間勤務し、臨床を行いながら長崎大学大学院で医学博士の学位を取得しました。臨床では脳卒中後の後遺症に対するリハビリテーションに従事し、より効果的な介入方法の検証として、運動観察・運動イメージ中の脳血流動態の変化に着目して研究をしていました。また、学位取得後は長崎大学大学院で客員研究員として運動観察・運動イメージに関する基礎研究を行ってまいりました。このような研究を通じて、科学的根拠に基づく作業療法に寄与することを目指しております。

今後は本専攻の研究環境で、これまでの基礎・臨床研究をさらに発展させるとともに臨床応用へ活かせる研究の継続を行っていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第 33 回健康科学市民公開講座報告書

令和 5 年度 学術委員会委員長 臨床系医療科学講座 福間 真悟

令和 6 年 2 月 3 日（土）に健康科学市民公開講座を約 4 年半ぶりに開催いたしました。今回は初のハイブリッド開催となり、「認知症予防の新展開：何がどこまでわかっているのか？」をテーマに、認知症予防の街づくりに取り組む筑波大学の辻大士先生と日本の認知症予防研究の最前線におられる神戸大学の古和久朋先生とのお話を伺いました。

また、本専攻の修士課程の学生であり、本学謎解き制作団体に所属する塩原綾音さんが行ったアイスブレイクでの謎解き頭の体操も、大いに盛り上がりました。



会場の様子

○アイスブレイク

アイスブレイクでは、塩原さんが制作したオリジナルの謎解き 5 問を出題し、参加者のみなさんに解答してもらいました。会場では、参加者のみなさんが笑顔で奮闘している様子がうかがえました。



塩原さん（アイスブレイク）

講演 1：認知症予防最前線① 認知症になりにくい町づくり

辻大士先生は筑波大学体育系で健康増進や公衆衛生の研究を行う傍ら、認知症予防に関する研究にも取り組んでいます。

本講演では、辻先生の研究から見てきた「認知症になりにくい街」の特徴と、実際に神戸市で取り組んだ認知症予防に効果的な地域活動等について紹介されました。

認知症予防には、自分自身が積極的に社会参加することが重要で、また、ボランティアやリーダーとして地域に影響を与える役割を果たすことで、地域全体が「認知症になりにくい街」になる可能性が高まる可能性があることをお話いただきました。



辻先生

講演 2：認知症予防最前線② 認知症を予防する複合アプローチ

古和先生は、神戸大学リハビリテーション科学領域で、認知症予防に関する研究を長年進めてこられました。特に力を入れているのが、高齢者一人ひとりに合わせた「複合アプローチ」です。

本講演では、古和先生が行っている兵庫県丹波市で高齢者を対象とした運動教室への参加、食事指導、生活習慣改善指導などを行う複合的な認知症予防プログラム「J-MIMT 研究」が紹介されました。認知症予防に関する最新の情報と、具体的な実践方法について学ぶことができる貴重な機会となりました。



古和先生

Q&A

最後に、25 分ほどの時間で質問事項について講師の先生にお答えいただく質疑応答を行い、多くの質問が会場やオンラインから寄せられ、一つ一つ丁寧に回答いただきました。

今回は対面 70 名、オンライン 30 名の方にご参加いただき、参加者の方々からは、大変満足いただいたことがアンケートから伺え、今後のテーマ希望など、様々なご意見をいただきました。今後もより充実した内容の講座を提供できるよう努めてまいります。



Q&A

2023 年度オープンキャンパス

2023 年度オープンキャンパスは、来場型（8 月 9 日）と WEB サイト上への動画公開の形式で行われました。来場型では、300 名の事前申込（上限 300 名）があり、当日は 260 名が参加されました。

オープンキャンパス 2023 来場型企画 （10：00-11：30、13：00-14：30 の 2 部制）

学科長による歓迎の挨拶
入試相談コーナー、各コースの説明会、体験ブース

オープンキャンパス 2023 オンラインコンテンツ一覧

医学部人間健康科学科
医学部人間健康科学科長 挨拶・概要説明（動画）
特色入試について（動画）
先端看護科学コース ・コース長の挨拶（動画） ・コースの概要（動画） ・在学生の声（動画） ・OB/OG からのメッセージ（動画）
先端リハビリテーション科学コース ・コース長挨拶（動画） ・在学生の声 [PT]（動画） ・模擬講義（動画）[PT] ・デモンストレーション [PT]（動画） ・卒業生による相談室 [PT]（動画） ・作業療法の紹介 [OT]（動画） ・学部生メッセージ [OT]（動画） ・大学院在学生・卒業生メッセージ [OT]（動画） ・講座長挨拶 [OT]（動画）
総合医療科学コース ・コース長より総合医療科学コースの全体説明（動画） ・コースの概要説明（動画） ・学生の声（動画） ・学生の声 -1（動画） ・学生の声 -2（動画）

（人間健康教務掛）

博士授与者と論文題目

近 藤 めぐみ

論文題目：Growth Experience Bereaved of a Spouse by Cancer: Relying on Merleau-Ponty's Reorganization of the Body Schemes

(がんで配偶者を亡くした遺族にとっての成長経験：メルロ＝ポンティの身体図式の組み換えに依拠して)

木 藤 哲 史

論文題目：Population-based asymmetric margins for moving targets in real-time tumor tracking

(リアルタイム腫瘍追尾技術における動体標的に対する患者集団統計量に基づいた非対称マージン計算式の導出)

曾 徳 容

論文題目：Why do male nurses choose to work in foreign countries? A qualitative study on Chinese male nurses working in Japan

(なぜ男性看護師は外国で働くのか？日本で働く中国人男性看護師に関する質的研究)

増 田 達 哉

論文題目：RUNX1 transactivates *BCR-ABL1* expression in Philadelphia chromosome positive acute lymphoblastic leukemia

(RUNX1 はフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病において *BCR-ABL1* の発現を転写制御する)

岸 上 祐加子

論文題目：Application of three-dimensional organ models to improve robustness to interfractional anatomical changes in radiotherapy

(放射線治療における日間変動に対する堅牢性向上に向けた三次元臓器モデルの応用)

東 克 暁

論文題目：Construction of a T7 phage random peptide library by combining seamless cloning with *in vitro* translation

(seamless cloning と *in vitro* translation の組み合わせによる T7 ファージランダムペプチドライブラリーの構築)

田 村 葉 子

論文題目：Development and Effectiveness of an End-of-Life Care Program for Faculty in the Critical Care Field : A Randomized Controlled Trial

(クリティカルケア領域の指導者層を対象としたエンド・オブ・ライフケアプログラムの開発と効果：ランダム化比較試験)

高 橋 秀 樹

論文題目：The effectiveness of dance movement therapy for individuals with Down syndrome: a pilot randomised controlled trial

(ダウン症者に対するダンスムーブメントセラピーの有効性：パイロットランダム化比較試験)

博士号を取得して

近藤 めぐみ

令和6年1月に博士号を取得しました近藤めぐみと申します。この度は、寄稿の機会をいただき誠にありがとうございます。

私は京都大学医学部保健学科を卒業後、臨床にて5年間がん看護に携わり、臨床経験で感じた疑問を解決したい思いから平成26年に修士課程に進学しました。修士課程では、田村恵子教授のご指導を賜り、がんサバイバーの生き抜く力とは何かを熟練ケア提供者へのインタビュー調査から明らかにしました。平成28年に博士課程に進学後、自身が家族との死別を経験したこともあり、大切な家族を亡くした遺族へのケアに関心が向かい、日本において遺族ケアが不足していることを知りました。そこで、博士課程では、田村恵子教授および白井由紀准教授のご指導を賜り、がんで配偶者を亡くした遺族の心的外傷後成長とは何かを現象学的視点から明らかにしました。博士号を取得するまでには約8年を要しましたが、最後までご指導くださった諸先生方や研究室の皆様の支えを得て乗り越えることができました。この経験はかけがえのない宝物であると感じております。研究者としてはまだまだ未熟者ですが、これまでの御恩を少しずつでもお返しできるように日々精進して参ります。

最後になりましたが、ご指導を賜りました諸先生方、研究室の皆様、研究にご協力いただいた全てのご遺族の方々に、心より厚く御礼申し上げます。



博士号を取得して

木藤 哲史

2024年1月に博士号の学位を取得しました木藤哲史と申します。この度は、寄稿の機会を頂き誠に感謝申し上げます。

私は2006年に名古屋大学大学院医学系研究科修士課程を修了後、がん専門病院の放射線治療部門にて、医学物理士として勤務しておりました。程なく名古屋大学大学院の博士課程に進む思うように研究は捗らず、また担当教授が病没されたこともあって研究の針路を見失ってしまい、徐々に学位取得への意欲を失っていきました。そのような日々を過ごす中、2017年に所属するがん・感染症センター都立駒込病院が京都大学医学部附属病院主導の動体追尾照射装置を用いた多施設共同臨床試験に参加することになり、2020年の研究進捗会議にて中村光宏教授よりこの臨床試験データを活用して博士論文を執筆してはどうか、とお声がけ頂きました。私は中村教授のご厚意を有り難く頂戴し、京都大学の研究生として本研究に取り組むことにいたしました。私の研究は、動体追尾照射において最適な照射範囲を決定するためのマージンを幾何学的に厳密に計算することであり、臨床試験データを用いてその妥当性を検証いたしました。この論文を完成させるにあたり、論文の基本的な作法から理論の詳細部まで、中村教授より根気強くご指導いただきました。論文は何度もrejectされ、追加解析や論文の書き直しにも多くの時間を費やしてしまいましたが、最終的には自身が納得できる最高の形で論文は受理され、無事学位を取得することができました。

改めてこれまで多くのご指導をいただきました中村光宏教授と、多施設共同臨床試験にてデータをご提供いただき、ご支援賜りました京都大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院、京都桂病院、がん・感染症センター都立駒込病院の諸先生方に心より厚く御礼申し上げます。最後に、研究論文執筆半ばに急逝されましたがん・感染症センター都立駒込病院 放射線科（治療部）旧部長の唐澤克之先生に哀悼の意を表します。



博士課程を振り返って

岸上 祐加子

この度は寄稿の機会をいただき、誠に感謝申し上げます。2024年3月に博士の学位を取得しました岸上祐加子と申します。入学以前、私は放射線技師として市中病院で主に放射線治療に従事しておりました。その中で、放射線治療に関する知識、経験を深めたいという思いが強くなり、京都大学の博士課程へと進学することを決意いたしました。

当初は社会人博士でしたが、京大で直接の指導を受けられないことや、時間的な制約が壁となり、思うような成果が出ずにいました。学生に専念するべきか悩み続ける私に対して、中村先生は、時に優しく時に厳しく、この世界へ飛び込めるように背中を押し続けてくださりました。仕事を辞めて学生に専念することは、本当に怖かったです。しかしながら、今の私は当時の私に「間違っていなかった」と胸を張って伝えることができます。非常に充実した教育環境は言うまでもなく、温かくて心強い、そして高みを目指す周囲の皆様に支えられ、今までの人生の中で最も成長できたのではないかと思います。今後は、これまでの学びを活かし、医療の現場へ貢献できるよう引き続き精進して参ります。

最後になりますが、私の院生生活は周囲の皆様の支えの上に成り立っていたように思います。一人では決して乗り越えることはできませんでした。中村先生をはじめ、研究をご指導いただいた全ての皆様、医学物理研究室の皆様、病院スタッフの皆様にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。



博士号を取得して

東 克暁

令和6年3月に博士号を取得いたしました東克暁と申します。この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は博士課程において、野中元裕先生の指導の下、T7ファージライブラリーの高効率な作製方法の開発研究に取り組みました。現在は野中研究室で研究員として研究に携わっております。

修士課程として本学薬学研究科在籍時に師事した野中先生が人間健康科学系専攻へ栄転されたことをきっかけに、こちらの専攻で博士後期課程へと進学しました。研究室の黎明期に主力として立ち会うことができ、未熟ながらも様々なプロジェクトを自由度高く主導させていただけたことで、大きく成長することができました。一人の研究者として対等に扱って議論して下さった時間は非常に充実したものでした。これらの経験は、これからの人生で重要なものになると感じております。このような機会を与えてくださり、熱心に指導して下さった野中先生には頭が上がりません。

また、この博士後期課程の期間には、研究そのものについてだけでなく、独立した研究者としてのあり方についても学ばせていただき、研究や教育を目的として研究室を運営することの難しさと楽しさを身近に見せていただきました。その姿を胸に、これからも研究者として、また、一人の人間として研鑽を積んでいきたいと考えております。

最後になりますが、これまでの院生生活は、指導して下さった野中先生、岡先生、森瀬先生をはじめ、人間健康科学系専攻の先生方や研究室のメンバーのご協力があったものでした。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

博士号を取得して

田村 葉子

2024年3月に博士号を取得いたしました田村葉子と申します。この度は、寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。

博士課程では、クリティカルケア領域におけるエンド・オブ・ライフケアの質向上のために指導者層を対象とした教育プログラムを開発し、その効果を検証いたしました。その過程では、ELNEC-J (End-of-Life Care Nursing Education Consortium Japan) クリティカルケアカリキュラム開発研究会を立ち上げ、研究会メンバーと共に教育プログラムで用いる教材内容の検討を行いました。現在も研究会メンバーと共に開発した教材を用いてクリティカルケア領域のエンド・オブ・ライフケア教育の普及活動を継続しております。これまでの経験を活かし、より一層精進してまいります。

最後になりましたが、長きにわたりご指導を賜りました任和子先生、西山知佳先生、竹之内沙弥香先生、任研究室のゼミ生の皆様、ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム開発研究会の皆様、研究にご協力頂きました全ての皆様に、この場を借りて御礼を申し上げます。

博士号を取得して

高橋 秀樹

2024年3月に博士号を取得いたしました高橋秀樹と申します。この度は、寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は米国 Sarah Lawrence College ダンス / ムーブメントセラピー学修士課程を修了した後、医療福祉施設にてダンス / ムーブメントセラピストとして勤務いたしました。その後、帰国し、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻に入学いたしました。

博士課程では、発達障がいがある児・者に対するダンス / ムーブメントセラピーの有効性について研究を深め、7年間かけて学位の取得に至りました。7年間の道のりでは、まず、ダンス / ムーブメントセラピーとは何か、という基本的な概念を何度も振り返るところから始まり、一つずつ研究を重ね、最終的にダウン症候群者に対するダンス / ムーブメントセラピーの有効性について、パイロットランダム化比較試験の実施をし、その後、学位の取得に至りました。

現在は、大学教員として教育と研究に携わらせていただきながら、保育現場にてダンス / ムーブメントセラピストとして子どもと関わり、子どもの発達支援に貢献できるよう努めております。教育・研究者として、まだまだ未熟ではありますが、京都大学で学ばせていただきました経験を糧に、社会に貢献できるよう精進していきたく考えております。

最後になりましたが、研究にご協力くださいました参加者の皆様、長年に渡りご指導を賜りました加藤寿宏先生、稲富宏之先生、田畑阿美先生、松島佳苗先生、研究室の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

人間健康科学系専攻・人間健康科学科 令和6年度入学試験結果 及び 令和5年度修了・卒業者数

令和6年度 医学部人間健康科学科入学試験結果

コース・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	特色	20	45	17	17
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	特色	5	10	2	2
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)	特色	5	12	6	6
一 括	一般	70	241	84	84
合 計		100	308	109	109

令和6年度 医学部人間健康科学科（2年次学士）入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	12	10	2	2
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	5	6	1	1
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		1	0	0
合 計	17	17	3	3

令和6年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）

入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース { 専門看護師課程（内数） } 【高度実践助産学系（内数）】	70【10】	16[3] {2[2]} 【4[0]】	12[3] {2[2]} 【2[0]】	10[3] {2[2]} 【2[0]】
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)		19[2]	18[2]	16[2]
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		9[0]	6[0]	6[0]
総合医療科学コース		50[0]	48[0]	44[0]
合 計	70	94	84	76

[] の数は、社会人特別選抜（内数）

令和6年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）

入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	25	13[0]	10[0]	10[0]
先端リハビリテーション科学コース （先端理学療法学講座）		6[2]	5[2]	5[2]
先端リハビリテーション科学コース （先端作業療法学講座）		4[0]	2[0]	2[0]
総合医療科学コース		5[0]	5[0]	4[0]
合 計	25	28	22	21

[] の数は、内部進学試験（内数）

令和5年度 医学部人間健康科学科卒業生数

コース・専攻	卒業生数
先端看護科学コース	27
先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座）	11
先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）	6
総合医療科学コース	61
合 計	105

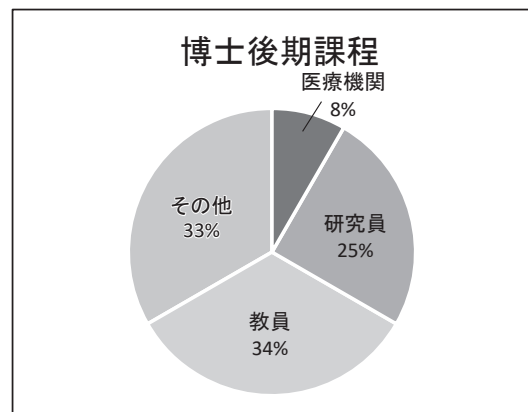
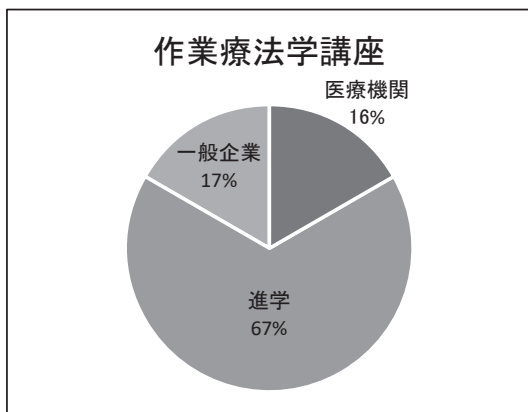
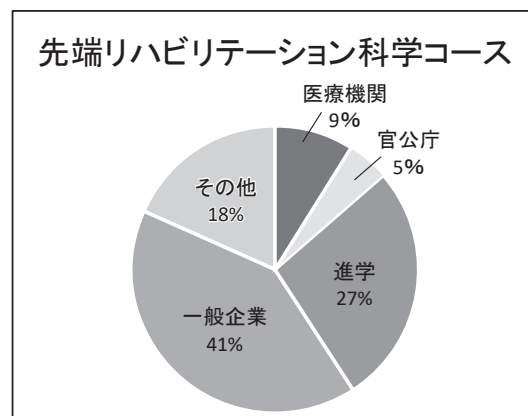
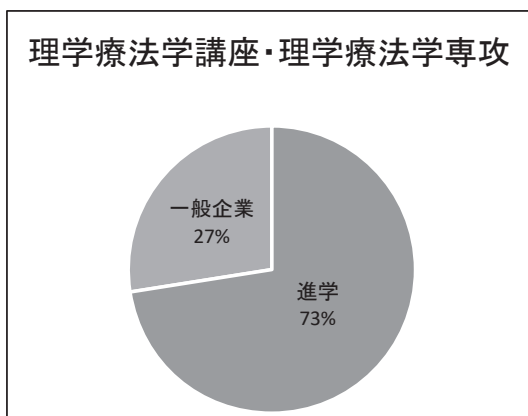
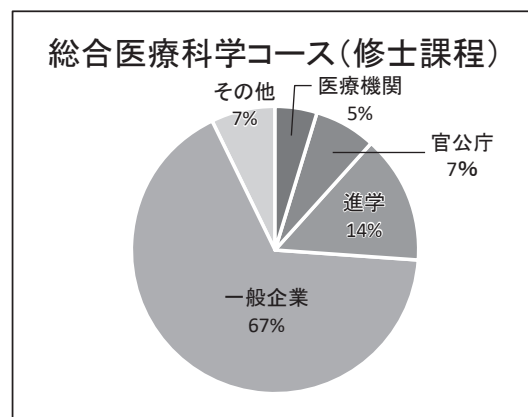
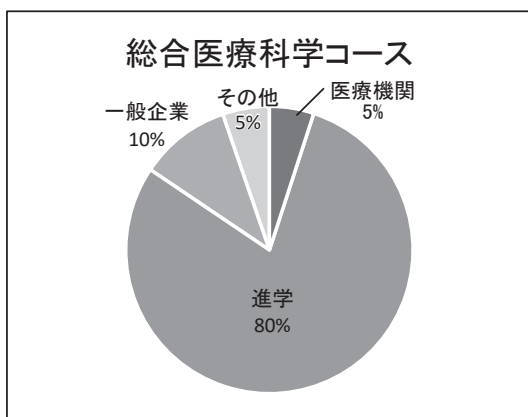
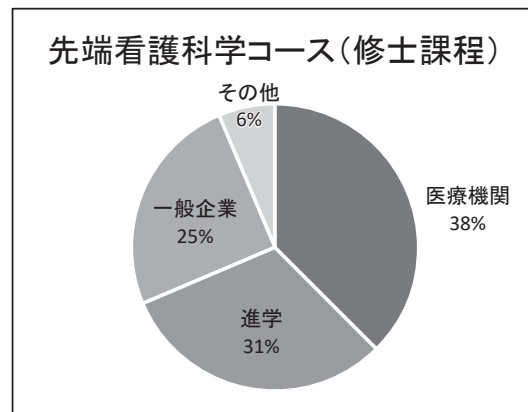
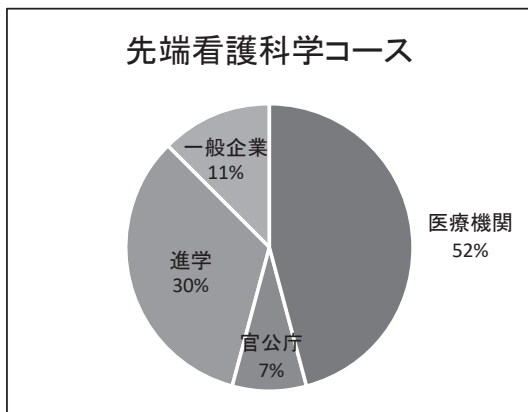
令和5年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

コース	修了者数
先端看護科学コース	15
【高度実践助産学系（内数）】	【6】
看護科学コース	1
総合医療科学コース	42
先端リハビリテーション科学コース （先端理学療法学講座）	15
先端リハビリテーション科学コース （先端作業療法学講座）	7
合 計	80

令和 5 年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

コ ー ス	修 了 者 数
先 端 看 護 科 学 コ ー ス	1
看 護 科 学 コ ー ス	2
総 合 医 療 科 学 コ ー ス	4
検 査 技 術 科 学 コ ー ス	2
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	1
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	1
合 計	11

令和5年度（2024年3月） 卒業・修了生の進路調査結果



人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
令和 5 年 6 月 1 日	特定助教	廣野 哲也	先端理学療法学講座	採用
令和 5 年 7 月 1 日	准教授	阿久澤 智恵子	先端広域看護科学講座	採用
令和 5 年 7 月 1 日	助教	三井 督子	先端中核看護科学講座	採用
令和 5 年 8 月 1 日	准教授	上野 智弘	理工系医療科学講座	昇任
令和 5 年 8 月 1 日	特定助教	稲葉 明彦	食と健康科学研究講座（産学共同）	採用
令和 5 年 8 月 31 日	特定研究員	BOONCHAN, Michittra	健康医療 AI 講座（産学共同）	辞職
令和 5 年 10 月 1 日	助教	金橋 徹	基礎系医療科学講座	配置換
令和 5 年 12 月 1 日	助教	林 和寛	若手重点戦略定員	採用
令和 5 年 12 月 1 日	特定研究員	LOPEZ INIESTA, Maria Jose	健康医療 AI 講座（産学共同）	採用
令和 6 年 3 月 31 日	教授	黒木 裕士	先端理学療法学講座	定年退職
令和 6 年 3 月 31 日	教授	岡 昌吾	基礎系医療科学講座	定年退職
令和 6 年 3 月 31 日	教授	恒藤 暁	先端中核看護科学講座	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	准教授	鎌田 真由美	医療 DX 教育研究センター	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	准教授	福間 真悟	臨床系医療科学講座	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	准教授	谷向 仁	先端作業療法学講座	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	准教授	徳野 治	臨床系医療科学講座	任期満了
令和 6 年 3 月 31 日	特定准教授	岩田 浩明	食と健康科学研究講座（産学共同）	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	特定准教授	岡本 里香	先端基盤看護科学講座	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	特定講師	谷一 靖江	総合医療科学コース	任期満了
令和 6 年 3 月 31 日	助教	古谷 和紀	先端中核看護科学講座	辞職
令和 6 年 3 月 31 日	特定助教	比良野 圭太	臨床系医療科学講座	任期満了
令和 6 年 4 月 1 日	教授	野中 元裕	基礎系医療科学講座	昇任
令和 6 年 4 月 1 日	教授	山口 智史	先端理学療法学講座	採用
令和 6 年 4 月 1 日	特定教授	福間 真悟	臨床系医療科学講座	採用
令和 6 年 4 月 1 日	准教授	小島 諒介	医療 DX 教育研究センター	昇任
令和 6 年 4 月 1 日	准教授	嶋田 和貴	先端中核看護科学講座	採用
令和 6 年 4 月 1 日	准教授	松尾 英将	臨床系医療科学講座	昇任
令和 6 年 4 月 1 日	特定講師	比良野 圭太	臨床系医療科学講座	採用
令和 6 年 4 月 1 日	助教	石川 恵子	先端中核看護科学講座	採用
令和 6 年 4 月 1 日	助教	御手洗 彰	若手重点戦略定員	採用
令和 6 年 4 月 1 日	特定助教	岩永 裕人	先端作業療法学講座	採用
令和 6 年 4 月 1 日	特定助教	藤原 健悟	先端作業療法学講座	採用

日 誌 (R5.4 ~ R6.3)

4.4	学部2 回生ガイダンス	9.15	2 年次学士入学試験合格発表
4.5	大学院新入生ガイダンス		大学院修士課程入学試験合格発表
4.6	病院協議会	9.19	拡大執行部会議
	教員会議	9.21	研究紹介(講演)(オンライン)
4.7	学部入学式		教員会議
	大学院入学式		教授会・学系会議
	学部新入生ガイダンス	9.27	執行部会議
4.13	医学研究科会議・医学教授会	9.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
	教務・教育委員会		
4.17	拡大執行部会議		
4.20	教授会・学系会議	10.5	病院協議会
4.26	執行部会議		教務・教育委員会
4.27	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		教員会議
		10.12	医学研究科将来計画検討委員会
5.9	病院協議会		医学研究科会議・医学教授会
5.11	医学研究科将来計画検討委員会	10.16	拡大執行部会議
	医学研究科会議・医学教授会	10.18	解剖大祭
	教務・教育委員会	10.19	教授会・学系会議
5.13	執行部会議	10.25	執行部会議
5.15	拡大執行部会議	10.26	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
5.18	教員会議	10.31	大学院博士後期課程入学試験
	教授会・学系会議		
5.20	大学院説明会[先端看護科学コース]	11.2	病院協議会
5.24	執行部会議		教務・教育委員会
5.25	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	11.8	過半数代表者選挙投票日
5.27	大学院説明会[総合医療科学コース]	11.9	医学研究科将来計画検討委員会
			医学研究科会議・医学教授会
6.1	病院協議会	11.11-12	特色入試第2 次選考
	教務・教育委員会	11.13	拡大執行部会議
6.3	大学院説明会[先端理学療法学講座]	11.16	研究紹介
6.8	医学研究科会議・医学教授会		教員会議
6.12	拡大執行部会議		教授会・学系会議
6.15	教員会議	11.22	執行部会議
	教授会・学系会議	11.22-25	11 月祭
6.17	大学院説明会[先端作業療法学講座]	11.24	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
6.18	創立記念日		医学研究科会議
6.21	執行部会議		博士後期課程入学試験合格発表
6.22	人間健康科学 V 説明会(オンライン)		
	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	12.7	病院協議会
			教務・教育委員会
7.6	病院協議会		教員会議
	教務・教育委員会	12.14	医学研究科将来計画検討委員会
	教員会議		医学研究科会議・医学教授会
7.13	医学研究科将来計画検討委員会	12.18	拡大執行部会議
	医学研究科会議・医学教授会・臨時教授会	12.21	教授会・学系会議
7.18	拡大執行部会議	12.23	京都大学医学教育ワークショップ(KUROME)(オンライン)
7.20	教授会・学系会議	12.25	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
7.26	執行部会議	12.27	執行部会議
7.27	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		
		1.9	新年挨拶会
8.9	オープンキャンパス		病院協議会
8.14-16	夏季一斉休業		教員会議
8.18	2 年次学士入学試験	1.11	教務・教育委員会
8.22	大学院修士課程入学試験		医学研究科将来計画検討委員会
			医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
9.7	病院協議会	1.13-14	大学入学共通テスト
	教務・教育委員会	1.15	拡大執行部会議
9.14	臨時教授会	1.18	教授会・学系会議
	医学研究科将来計画検討委員会	1.24	執行部会議
	医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会	1.25	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
			医学研究科会議・医学教授会

日 誌 (R5.4 ~ R6.3)

2.1	病院協議会 教務・教育委員会 教員会議	3.7	病院協議会 教務・教育委員会 教員会議
2.8	医学研究科会議・医学教授会	3.8	臨時教授会 医学部教授会
2.9	臨時教授会	3.10	学部入試合格発表
2.13	拡大執行部会議 特色入試合格発表	3.14	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会
2.15	教授会・学系会議	3.18	拡大執行部会議
2.21	執行部会議	3.21	人間健康 FD 討論会（オンライン） 教授会・学系会議
2.22	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会	3.25	修士・博士学位記授与
2.25-26	学部入試	3.26	学部学位記授与
		3.27	執行部会議
		3.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議

あとがき

本年も無事に広報をお届けすることができました。本誌では、本学科を取り巻く組織改革や人事異動を皆様に正確にお伝えするとともに、学位取得者の声や開催行事などもご紹介したいと思っております。今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

(奥野 恭史)



<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

